

はじめに

—本研究全体の問題意識—

津谷 好人

かつて全国各地で広く生産されていた作物、特に商品作物と呼ばれた作物の多くが、国内外の競争の中で衰退の一途をたどり、完全に市場から消え去ったり、マイナークロップ化してきた。しかし近年、このマイナークロップ化した作物やその加工品が、直売所など局地に限られた市場の範囲であるが、多く流通するようになり、地域の活性化に大きく貢献している。あるいはこうした市場に新規の作物が導入されたりもしている。また、こんにゃく・大麦・かんぴょう・たばこなど加工資本と結びついて根強く生き残っている作物がみられる。

従来の商品作物に関する研究は、特定の個別品目に限定され、かつ生産・加工・流通・消費のいずれかの局面に限定されたものになっていた。しかも、一旦マイナークロップ化した商品作物はそもそも研究対象から外された。しかしマイナークロップは、実際には、他の作物に先駆けて、加工資本・流通資本と結びつくなどして、競争適合戦略が図られてきた経験を持つ作物であり、戦略次第では地域固有の差別化商品となりうることから、その経済的特色や展開過程について着目する必要がある。またマイナークロップ化していった商品作物の歴史的展開過程を把握し、それが有する競争力と弱点を解明することは、WTO体制の下、米などの主要農産物の展望がどのように描けるかという課題に対しても間接的に有益な示唆を提示すると思われる。

本研究の目的は、マイナークロップを、商品作物の歴史的展開における衰退過程の産物と捉えるのではなく、より厳しい競争的市場環境の下で差別化戦略がとられ、生存している部門として捉え、その経営経済的特色を明らかにすることである。具体的には以下の項目について研究することを目標とした。

① マイナークロップの消費特質と供給構造の変化

マイナークロップを新（ニッチ）市場を創造する差別化商品と認識し、消費構造の統計分析と結びつけ、競争的市場対応としての特質を明らかにする。

② 商品作物の生産・流通構造の歴史的展開と加工資本及び商業資本の役割

生産・消費市場だけでなく流通商業資本や加工資本を含む、垂直的市場分析を行う。

③ 地域経済・農業に対するマイナークロップの役割

④ 農家経営におけるマイナークロップの意義と多面的価値

⑤ マイナークロップの地域市場、国内市場、国際市場との関係

地域市場及び国内市場の展開に対する国際市場が及ぼした影響を分析する。

この総合研究は、競争市場下での調整と構造変化、加工市場への生産対応と加工・商業資本の役割、国際市場と国内・地域市場の連動性等を明らかにし、今後の日本農業の存続に役立つ結果を導く。

従来の研究は個別単品を対象にしたもので、作目全体を総合的に分析していない。また、分析は、経営、歴史、計量といった分析に特化し、更に生産・流通・消費の特定の場に限定されてきた。本研究は、歴史的展開過程の統計的検証を共通認識とし、生産から消費までを一連として体系づけ、総合的に分析しようとするものである。